

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
九州管区警察学校本館

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.1.22)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-			<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15		-			<b>3.0</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40		-			
1.2 遮音		<b>4.2</b>	0.40		-			
1 開口部遮音性能	居室の外壁に設ける開口部は、遮音性能T-2としている。	<b>5.0</b>	0.60		-			
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.40		-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-			
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20		-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.8</b>	0.35		-			<b>2.8</b>
2.1 室温制御		<b>2.6</b>	0.50		-			
1 室温		<b>2.0</b>	0.38		-			
2 外皮性能		<b>3.0</b>	0.25		-			
3 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38		-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20		-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30		-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.4</b>	0.25		-			<b>3.4</b>
3.1 昼光利用		<b>3.4</b>	0.30		-			
1 昼光率		<b>3.0</b>	0.60		-			
2 方位別開口					-			
3 昼光利用設備	教場・職員室等の照明制御を、昼光センサーを利用して行っている。	<b>4.0</b>	0.40		-			
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30		-			
1 昼光制御	ブラインドに加え、ライトシェルフ(南面)とリブ柱により直射光を遮蔽。	<b>4.0</b>	1.00		-			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15		-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25		-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25		-			<b>3.6</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50		-			
1 化学汚染物質	内装材は全て規制対象外又は☆☆☆☆認定材料を使用している。	<b>4.0</b>	1.00		-			
2 アスベスト対策					-			
4.2 換気		<b>3.3</b>	0.30		-			
1 換気量	中央管理方式の空気調和設備で30m <sup>3</sup> /h人以上としている。	<b>4.0</b>	0.33		-			
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33		-			
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.33		-			
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20		-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	0.50		-			
2 喫煙の制御		<b>3.0</b>	0.50		-			
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>		-			<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40		-			<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40		-			
1 広さ・収納性		<b>3.0</b>	0.33		-			
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	0.33		-			
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	0.33		-			
1.2 心理性・快適性		<b>2.6</b>	0.30		-			
1 広さ感・景観		<b>3.0</b>	0.33		-			
2 リフレッシュスペース	出ることができる光庭、各階喫煙室などリフレッシュスペースを確保。	<b>4.0</b>	0.33		-			
3 内装計画		<b>1.0</b>	0.33		-			
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保	執務室の窓は庇に乗ることで拭き掃除ができる計画。	<b>4.0</b>	0.50		-			
3 衛生管理業務					-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.6</b>	0.30		-			<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.50		-			
1 耐震性	耐震安全性Ⅱ類(重要度係数1.25)の建物である。	<b>4.0</b>	0.80		-			
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.30		-			
1 躯体材料の耐用年数	水セメント比55%以上で、コンクリート等級2相当以上を確保。	<b>4.0</b>	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管、排水管の管材をCとしている。	<b>4.0</b>	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20		-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	熱源は電気とガスを併用、災害時に最重要となる室は個別空調採	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	汚水槽、雨水利用の設置や、給水管の細分化、節水器具採用。	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	発電機及び屋外に電源車接続盤を設置し、また、地下階を設けない。	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	3.4
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.1m以上を確保。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.2を確保。	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	2.8
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			2.0	0.30	-	-	2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			3.5	0.30	-	-	3.5
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			3.0	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>		空地率82%、緑被率40%など、敷地内温熱環境の向上に配慮。	4.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	3.8
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	4.4
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI値0.8	5.0	0.20	-	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>		効果検討を行ったうえでライトシェルフを南面に設置。	4.0	0.10	-	-	4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) -	4.7	0.50	-	-	4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BET値0.74	4.7	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	熱源設備・給湯設備・太陽光発電設備のモニタリングが行える。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.7
<b>1 水資源保護</b>			4.2	0.20	-	-	4.2
<b>1.1 節水</b>		節水コマに加え、省水型機器を採用。	4.0	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			4.4	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用率20%以上を確保。	5.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			3.8	0.60	-	-	3.8
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		躯体部:高炉セメント	5.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		内装下地材、内装材:製材、集成材、合板、ビニル系床材	5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			3.0	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.1
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率によるスコアが3.7	3.7	0.33	-	-	3.7
<b>2 地域環境への配慮</b>			2.9	0.33	-	-	2.9
<b>2.1 大気汚染防止</b>			3.0	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			3.0	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			2.8	0.33	-	-	2.8
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			2.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの屋外照明等設置チェックリストを考慮した照明	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	